

普天間の機能は、ほとんどが本土に移りました。
海兵隊の地上戦闘部隊は87%減ります。

解 決 簡 単 レ シ ピ

普天間閉鎖のためには
辺野古の埋め立ても
しようがない。

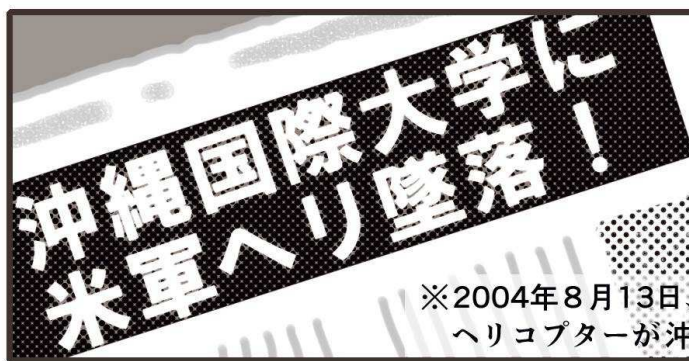
辺野古の埋め立ては
もういららないんです。

解決策はありますよ。

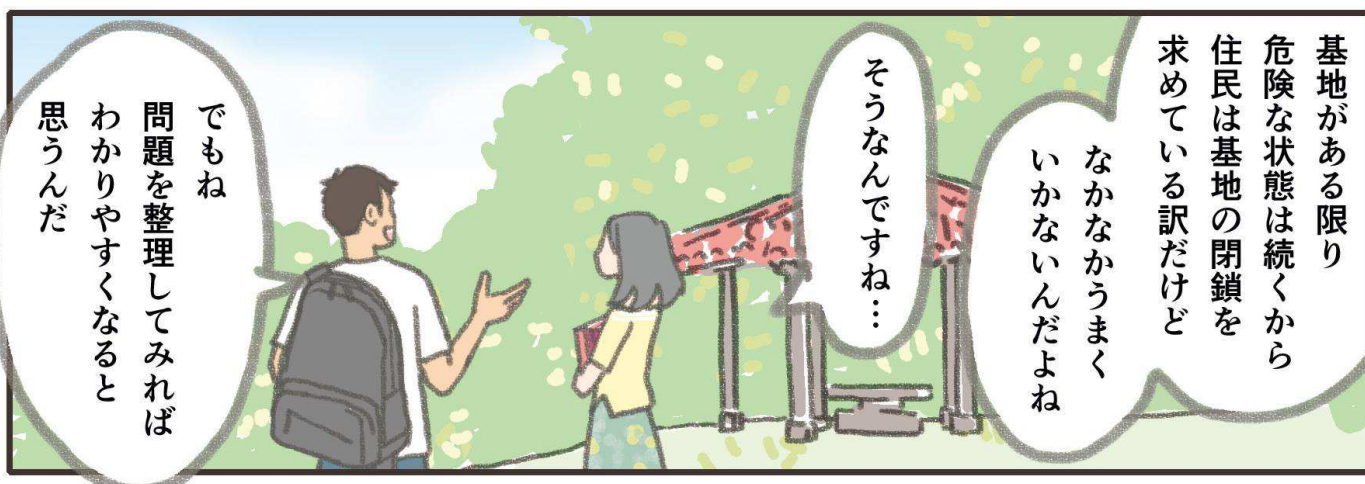


普天間飛行場と辺野古のこと。 もっと、たくさんの方が 本当のことを 知ってくれたら。

ヤラとも
PRESS



※2004年8月13日、在日米軍（アメリカ海兵隊）のヘリコプターが沖縄国際大学に墜落した事件。





普天間飛行場の役割は大きく分けて三つ

その一
「空中給油機の配備」

でもこれはすでに岩国へ移転済み
だから今は普天間にはない

その二
「いざという時のアメリカから派遣される飛行機の受け入れ」

これもすでに福岡の航空自衛隊築城基地と宮崎の航空自衛隊新田原基地に移転予定で

そのために滑走路を伸ばしたり米軍用の宿舎も建ててるし

あらじゃあ…



そう残された役割はあと一つ！
「オスプレイとヘリを飛ばす」だけ

もしこれが片付けられたらもう普天間飛行場がある意味はないってわけ

中身を整理してみると「地上部隊との連携訓練」と「パイロットの飛行訓練」が主なもので…

ええと…
地上部隊…？



ああ
ごめんごめん

「地上部隊との連携訓練」

っていうのはね

兵士を乗せて移動したり

ロープで兵士をつり下げたり

する訓練なんだけど…

この訓練に必要な航空機は

米国の専門家によると

5、6機で

足りるらしいんだ

実際

北部の訓練場で見ると

オスプレイやヘリは

通常2機で

多くて4機編隊くらい

そのくらい少ない数でも

沖繩の海兵隊に

支障はないってことなら

普天間ほど大きな基地は

必要ないはずなんだ

「パイロットの飛行訓練」なら
何も沖繩じゃなくても
どこでもいいくらいで…

安倍政権も飛行訓練を

本土へ移転しようとしたんだ

佐賀空港にね

でも地元の反対があったから

引っ込めちゃったんだよね

だから交代でやれば

いいんじゃないかな

九州・四国・中国地方あたりで

ローテーションを組めば

負担はそこまで重くないはず

普天間をまるごと持っていく

訳じゃないからね

普天間基地が
引っ越す訳じゃ
ないってこと
ですか？

そう

普天間基地全部が

移動するって印象が

あるからみんな

反対するんだと思う



飛行訓練を本土へ持って行って
地上部隊との連携訓練に
必要な航空機は
一時的に既存の
ヘリポートを使えばいい

そうすれば普天間は
すぐに閉鎖できると思う

そうか…
最初にあった
三つの役割が
なくなるって
ことでもんね

なのに政府は
それを見ないで
辺野古に基地を作ろうと
しているんだよね

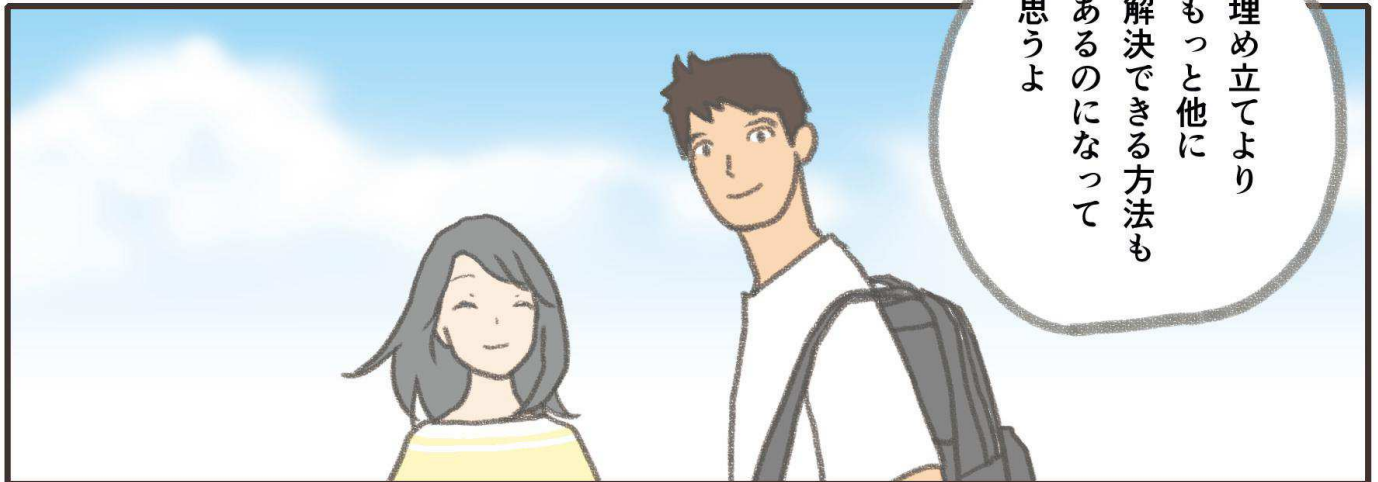
……



こないだドライブに
行ったんですけど…

辺野古の海
すごく
きれいでした

そうなんだよね…



埋め立てより
もっと他に
解決できる方法も
あるのになって
思うよ

辺野古の新基地建設は、普天間飛行場の代替とされています。
しかし、辺野古の埋め立ては本当に必要でしょうか？

普天間飛行場の役割

1 空中給油機 (KC130) を飛ばすこと。

山口県の岩国基地へ**移転済み**。

2 戦争など有事に米本国から派遣される来援機を収容すること。

福岡の航空自衛隊築城基地、宮崎の航空自衛隊新田原基地に**移転予定**。すでに滑走路の拡幅や隊舎の建設計画が進んでいる。

3 オスプレイとヘリの運用

パイロットの飛行訓練

沖縄県外へ**移転できる**。
一箇所が無理なら持ち回りで負担軽減も

地上部隊との連携訓練

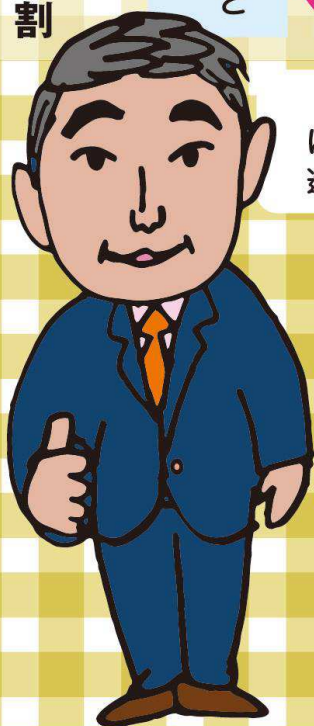
5、6機で足りるので、**当面、沖縄県内の既存のヘリポートで運用すれば、普天間飛行場はすぐに閉鎖できる**。

この役割はこれだけ!!

普天間飛行場の役割は3つ、そのうち「空中給油機(KC130)の運用」は、県外へ移転済で、「有事の際の来援機の収容」は、すでに移転計画が進んでいます。残っているのは、オスプレイとヘリの運用だけです。

オスプレイとヘリの運用はさらに2つに分解できます。「パイロットの飛行訓練」と「地上部隊との連携訓練」です。パイロットの飛行訓練なら、どこでやっても問題ないですよ。安倍政権も飛行訓練を本土へ移転しようと試みましたが、佐賀空港でした。しかし地元の県知事さんが反対したため、政府はすぐに引っ込めちゃった。安倍首相も「本土の理解が得られず、成果が出ていない」と認めている。

それならば、持ち回りでやればいいんじゃない。九州・四国・中国地方あたりでローテーションを組めば、負担はさほどでもない。



飛行訓練を本土へ持って行き、地上部隊との連携訓練に必要な航空機は既存のヘリポートを使えばいい。そうすれば普天間はすぐに閉鎖、辺野古埋め立ては不要となる。飛行訓練の本土移転は政府が先導しようとしたプランなので、ハードルは高くないでしょう

地上部隊との連携は兵士を乗せて移動したり、ロープで兵士を吊り下げたり。この連携訓練に必要な機数はとても少なく、米国の専門家によると5、6機で足りるらしい。確かに北部の訓練場で見るとオスプレイやヘリは通常2機編隊、多くて4機編隊くらい。その機数が沖縄にあれば海兵隊の運用には支障はないのです。

簡単レシピのそのあとは！

この提案はあくまでも緊急対策です。普天間をすぐに閉鎖し、辺野古の綺麗な海も守り抜く。海兵隊は2020年代半ばから米軍再編で大幅に削減されます。そのタイミングで全海兵隊の移転について米側と交渉すれば、沖縄の米軍基地は現在の70%が返還可能となります。それでも米空軍の嘉手納基地と弾薬庫が残ります。それだけでも本土にある米軍基地の面積合計よりも広い基地が沖縄に残ります。将来は軍事基地を沖縄からすべて撤去させて、玉城デニー知事が主張している「沖縄を平和のバッファゾーン(緩衝地帯)へ」を実現させましょう。

辺野古の埋め立ては解決策にならない。

名護市辺野古を埋め立てるのは、1日も早く普天間飛行場の危険性をなくすため、
 だったはずだ。ところが完成までに今後12年もかかるという。詐欺のような話だ。

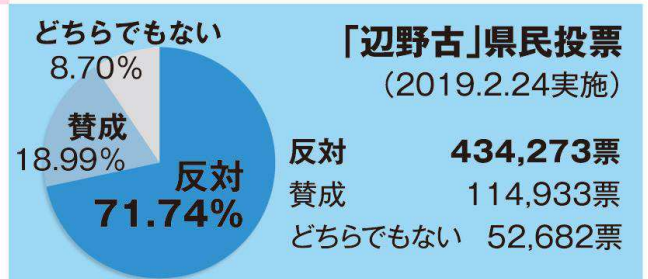


飛行場に隣接する小学校にはヘリコプターからの落下物を警戒し、政府はシェルターを設置した。2017年12月、海兵隊ヘリから窓枠が校庭に落下した。幸い怪我人はなかった。いまも子供たちはヘリコプターやオスプレイを見るとシェルターに逃げ込む。こんな状態を今後12年も放置するなんて人権問題だ。安倍政権は沖縄の人々の命を軽く見ているのか。「1日も早く」という政治目標はもはや達成できない。別の解決策を探すべきだが、安倍総理は国会で「辺野古が唯一だ」と冷たく言い放つ。(写真:琉球新報社提供)

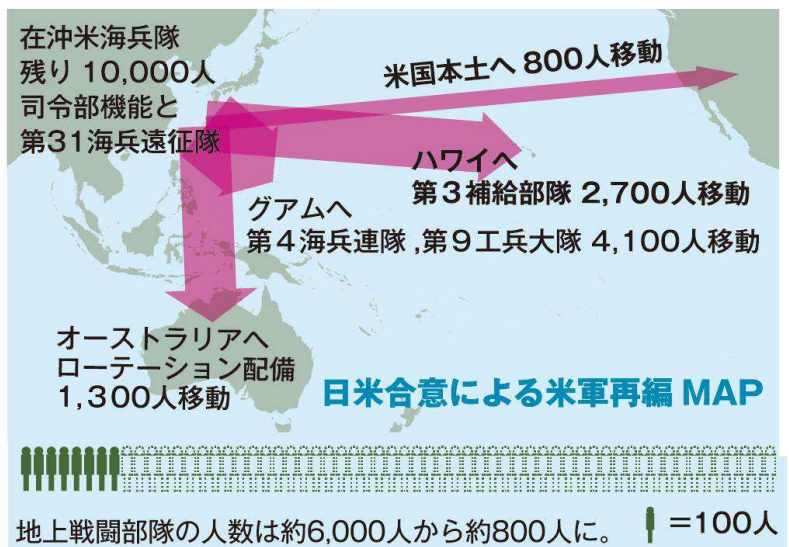
埋め立て工事に私たちの税金が9300億円も使われる。これは国立大学に通う全学生おおよそ60万人の授業料3年分を全額無料にできる。
 埋め立ては12年、9300億円よりも膨らむとみられている。なぜなら埋め立て予定の海底にマヨネーズと同じくらい柔らかい地層が見つかったためだ。完成しても滑走路が沈んでいく。米軍は「滑走路が短すぎる」と指摘する。こんな飛行場が本当に使い物になるだろうか。
 もはや辺野古埋め立ては「モンスター事業」と化した。沖縄の民意を無視、私たちの税金を浪費、子供たちをシェルターに走らせる人権無視、美しいサンゴの海を台無しにする環境破壊。これは犯罪に等しい。

沖繩の米軍基地のおよそ7割を占有するのが米海兵隊で、沖繩の米軍兵力2万5843人のうち約6割の1万5365人(2011年6月末現在)。日本に駐留する米軍の中で唯一・最大の地上戦闘兵力だ。普天間飛行場を使うのもこの部隊である。
 その海兵隊の戦闘力が激減する「米軍再編」が2020年代中ごろから実施される。戦闘部隊を中心に9千人がグアム、オーストラリア、ハワイへ分散移転する。沖繩に残るのは司令部と海兵遠征隊と呼ばれる小ぶりの部隊。その結果、地上戦闘兵力は現在の6千人から87%減の800人(上陸大隊)に縮小される。
 遠征隊は長崎県佐世保の艦船に乗り、1年の半分以上はアジア太平洋を巡回している。留守が多く小ぶりの部隊を政府は抑止力と呼び続けている。

なんちゃって抑止力



なんといっても辺野古の埋め立てには県民の7割が反対している(県民投票 2019年2月)。埋め立ての強行は民主国家ではあり得ない。



日米合意はもう変えられない？

軍隊に基地や人員、予算を与えるのは政治であることは言うまでもない。日米で合意したから変えられない、と考えるのは危ない思考だ。しかも普天間返還をめぐる日米合意は1996年で、いまや時代遅れだ。

米軍再編によってなぜ海兵隊が沖縄からグアムやオーストラリアなどへ移転可能なのかを知りたくて、筆者はハワイ大学内にある政府系シンクタンク「東西センター」へ客員研究員として留学(2007-08年)した。当時私は、沖縄タイムス記者として、基地問題を20年あまり取材していた。あの頃、日米両政府は海兵隊の各部隊が連携しているため、分散配置は不可能だと説明していた。だが、突然の再編合意で海兵隊は部隊を分散する。

軍事論でなく政治の責任だ！

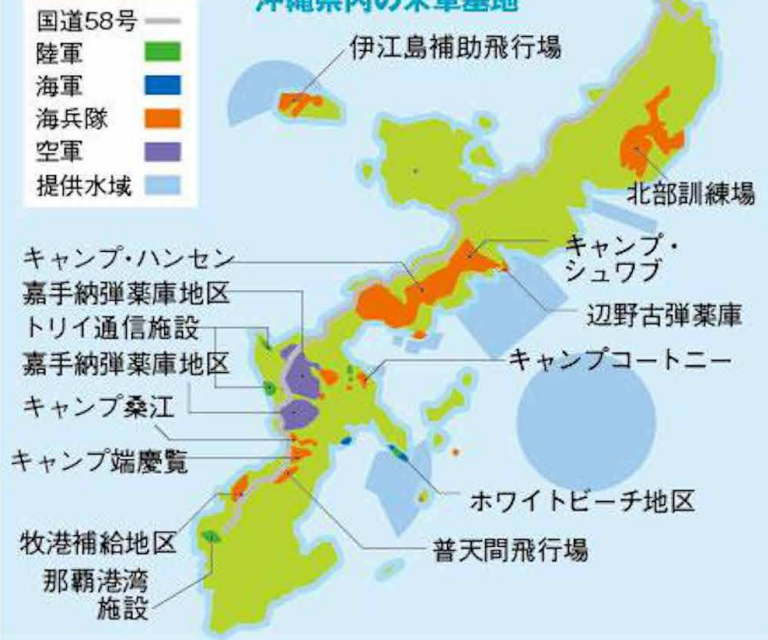
「すべて政治だよ」。ハワイの太平洋軍司令部で、海兵隊の再編担当者が語った。「海兵隊はなぜ部隊を沖縄からグアムなどへ分散するのか」と質問したときだ。担当者は「すべてラムズフェルドだよ。我々は政治の決定に従う」とだけ。ラムズフェルド元米国防長官は沖縄を訪問し、ヘリで普天間飛行場を視察した時、その危険性にびつくりし、海兵隊削減を指示したという。

ところが日本では米軍の都合で基地を沖縄に集中させている、と思われがちだ。その大デマを日本政府が広めている。沖縄の基地がなければ海兵隊が機能しないと日本政府は勝手に決めつける。それは世界展開する海兵隊の能力をみくびっている。

現状の軍事態勢を変える、変えない—は政治の意思だ。

そして政治を変えるのはもちろん私たちだ。政治を変えて、私たちの社会を変えていくしか、この問題を解決する方法はない。

沖縄県内の米軍基地



オレンジ部分は普天間など海兵隊の基地。沖縄にある米軍基地全体の7割を海兵隊が使っている。そもそも海兵隊は、岐阜、山梨、静岡などに駐留していたが、本土の反対運動などで沖縄に移転した。沖縄へ基地が集中した歴史が国民の記憶から消えた。玉城知事は「全国民が考えてほしい」と訴えている。

私たちの未来です。
みんなで考えてみよう！

文・構成:屋良朝博 マンガ:マキアートデザイン AD・ページデザイン/イラスト: Doucatty
 発行元:屋良朝博後援会 〒904-2155 沖縄県沖縄市美原4-22-12-B203
 電話 098-929-2416 Fax 098-92902005 <https://yaratomo.com>



この冊子を一人でも多くの方に読んでいただくために、募金、置いてくださるお店、配ってくださる方、などご協力をお願いしています。
 詳しくは屋良朝博のホームページ(<https://yaratomo.com>)をご覧ください。

